「労働情報」　号外　１９７７年５月２６日　第３種郵便認可　毎月２回　1.15 日発行

アジア太平洋の労働者をつなぐ

Links

2004 年 12 月
No.40

アジア太平洋労働者連帯会議（APWSL）日本委員会　機関誌（季刊）　定価 300 円
発行所　東京都台東区上野 1-1-12　新広小路ビル　協同センター労働情報　気付
TEL　03-3837-2542　FAX　03-3837-2544　E メール apwsljp@jca.apc.org　URL http://www.jca.apc.org/apwsljp/

「日韓ＦＴＡ反対！」外務省前に響く

日韓ＦＴＡ交渉に反対する１１月日韓共同行動——80 名を超える遠征闘争団が来日

尾沢　孝司（日韓民衆連帯全国ネットワーク）

「日韓 FTA 反対！」「日韓両政府は交渉を中断しろ！」　１１月１日の早朝、日比谷公園の霞門付近は、組合旗が何本もたなびき、赤や黄色のゼッケンや鉢巻を着けた多数の労働者が結集して、日本語と韓国語のシュプレヒコールが力強く響き渡り、これを取り巻くように何人もの私服が監視し、熱気と緊張した雰囲気に包まれていた。

この日は、日韓 FTA の締結に向けた第６回目の政府間交渉の初日だ。交渉は３日まで外務省で行われることになっている。

内容を一切秘密にして強行されたこの政府間交渉に対して、韓国から民主労総を中心にして「韓日 FTA 阻止韓国民衆闘争団」（団長：チョ・ジュノ民主労総組織強化特別対策委員長）が組織され来日、日本側と共に３日間に渡る日韓 FTA 反対の共同闘争に取り組んだ。この日本遠征闘争団に参加したのは、民主労総の他に、韓国における反グローバリゼーション運動のセンターである「自由貿易協定・WTO 反対国民行動（KoPA）」、全農、民主労働党、全国民衆連帯、社会進歩連帯など社会市民

団体６団体と、チャムセサン放送局などインターネット・メディアも３団体が同行取材、このほかにもう一つのナショナルセンターである韓国労総からも参加し、総勢８０名を超える大部隊だ。

日本側では、これまで日韓投資協定や日韓ＦＴＡに反対してきた「異議あり！日韓自由貿易協定」キャンペーンや ATTAC Japan、脱 WTO 草の根キャンペーンなどの市民団体と労働組合で「日韓ＦＴＡ交渉に反対する１１月日韓共同行動実行委員会」（連絡先：中小労組政策ネットワーク）が組織され、この共同行動に臨んだ。

日本では、これまで日韓ＦＴＡ反対運動は、市民団体が中心になって取り組まれてきたが、韓国からの闘争団来日を契機に労働組合などやその他の様々な団体に参加を呼びかけ運動の幅を大きく広げようと取り組まれた。

外務省前で激しい攻防戦
「日韓ＦＴＡ反対」の声響き渡る

朝８時、日比谷公園霞門には韓国の闘争団を含め２００名の労組、市民団体が結集した。日韓両国語のシュプレヒコールで気勢を上げて、交渉の行われる外務省に向かった。しかし外務省へ渡る交差点の前にはもう既に警官隊の暑い壁が作られ、外務省には１歩も近づけさせないように阻止線を張っている。政府省庁への申入れは当然の権利、公道の往来を妨害することこそが違法行為。何の法的根拠も示さずに通行妨害をすることに猛然とした抗議のルシュプレヒコーと怒号が湧き上がり、たちまちのうちに警官隊とのもみ合いが始まる。しばらく激しい攻防戦が繰り広げられたあと、共同行動参加者はやむなく移動し、外務省正門前の道路の反対側の農林水産省前の歩道に座り込んで、外務省正面を睨んで抗議行動を続けた。

闘争団の日韓ＦＴＡ交渉の中止を求める激しい怒りの声は霞ヶ関官庁街の一帯を圧倒し、外務省の窓からは政府交渉団関係者らしき人影がなにごとかと覗いている。どうやら闘争団の強い怒りの意思は届いているようだ。

この日は、以降「日韓ＦＴＡ交渉に反対する日韓労働社会市民団体による共同声明」の発表と現場での記者会見、連合と全労連への要請行動、外国人記者クラブにおける記者会見、国土交通省前に座り込む鉄建公団訴訟団の集会に参加しての抗議と連帯行動、夜には有楽町マリオン前での街頭宣伝活動などを行った。

▲　阻止線に迫る日韓共同行動の隊列

この日訪問した連合では、韓国側両労総と日韓ＦＴＡに対する「３組織共同声明」を出すことを合意した。その内容は、日韓ＦＴＡ自体には反対しないという連合の立場に規定されて「OECD 多国籍企業ガイドラインが提示する労働関連基準をはじめとする OECD 諸般基準を尊重・遵守しなければならない」という条件付の内容になった。全労連では、韓国側の要請に対して、韓国側労組の行動は支持はするが表面的に共同行動をするのは難しいとの曖昧な立場が明らかになった。

マスコミ関係では、AP 通信が配信し、NHK と日本テレビが夜の全国ネットのニュースで流したようだ。

警察が参加者１名を不当逮捕

二日目も、早朝から日韓総勢２５０名が結集して外務省前抗議行動を開始した。この日も警察は外務省側へ交差点を渡ることを阻止したために、やはり激しい攻防戦が繰り広げられた。その後農水省前に移動し座り込みながら抗議行動に入った。それに挑戦するかのように韓国側交渉団を乗せた大型バスが目の前で外務省正門からは入ろうとした。これに激昂した韓国側闘争団が車道に飛び出し再び激しい抗議行動を展開した。この過程で警察の盾で突き飛ばされるなどの暴力的妨害を受けて、民主労総組合員２名が負傷し病院へ行くという警察側の蛮行が行われた。

その後、国会議員会館前に移動し、議員会館前に座り込みながらの日本政府に対する抗議集会を行った。この移動の過程で、外務省側の歩道は

１歩も歩かせないという警察側の不当な規制に抗議した全日建運輸連帯労組関西生コン支部の組合員１名が、全く不当にも逮捕されるという弾圧が加えられた。結局この組合員は１０日間も不当に拘留され処分保留で釈放された。次に日本経団連前に移動し、抗議の申入れ書を提出、抗議集会を行った。ここにも外務省前を上回る警官隊が配置され厳重な警備体制が敷かれていた。このような厳重な警備体制を跳ね返し、集会は韓国側が司会をし、ウェーブをしたりシュプレヒコールをしたりと全くの韓国スタイルで進行した。特に今回の闘争団には民衆労働歌手のユークムシンさんが参加、『非正規職撤廃歌』など力強くかつ楽しい歌を披露、参加者を鼓舞し雰囲気を盛り上げた。

その後再び外務省に前に戻り、日韓の１５名の代表団が外務省の中に入り、経済連携課や日韓経済室が対応したが、代表団の要求を聞き置くという態度で何の明確な回答もなく、また韓国側闘争団が強く要求した韓国政府交渉団と会わせろということに対しても、韓国側が応じないということでこれも拒否したために、外務省内で怒りのシュプレヒコールを叫び外務省を後にした。

声高らかに韓国語のシュプレヒコールを叫びながら、解放感あふれる渋谷一周デモ

夜は渋谷・宮下公園にて「日韓ＦＴＡ阻止！日韓労働者民衆共同集会」が開かれ４００名が参加した。集会では、韓国側はチョ・ジュノ闘争団長と、日本側は全労協の藤崎良三議長が、日韓を代表して挨拶、「日韓ＦＴＡは労働者の生存権を奪い、非正規職が増大する。儲かるのは多国籍企業だけだ。労働者は一つになって闘わなければならない」とそれぞれ日韓労働者民衆の国際連帯を強調した。全統一の鳥井一平書記長が今回の共同行動の経過を報告し、また不当逮捕に対する抗議文も確認された。ここでも労働歌手のユー・クムシンさんが闘争歌を熱唱し会場を沸かせた。集会後、韓国側闘争団を先頭に渋谷一周のデモをしたが、韓国では夜間屋外での集会・デモが禁止されているらしく、繁華街での夜間の道一杯に広がったデモは、韓国側にとってとても解放感あふれる楽しいデモだったようだ。また韓国語のシュプレヒコールや歌がガンガンと鳴り響くデモは、今流行りの韓流とは違ったインパクトを道行く人々に与え、ビラの受け取りも良く注目度は高かったようだ。

外務省前抗議行動と対応戦略ワークショップ

３日目も、早朝より午前中は、道を隔てた外務省正門前に位置する農水省前で座り込み抗議集会を行った。午後からは、「日韓ＦＴＡ阻止！戦略ワークショップ」、「国際コメ年 NGO 国際シンポジウム」、「『持たざる者』の連帯行動」の集会・デモ、国労闘争団の新橋駅前宣伝活動などに分かれ参加した。

「日韓ＦＴＡ阻止！戦略ワークショップ」では、民主労働党のソ・ジュンソプ政策研究員は、「日韓 FTA は大規模な韓国労働者を長期間失業に追いやる等、両国の労働者・民衆の生存権を疲弊させる」とし、「民主労働党は通商政策の樹立と執行に関する民主的な手続きの樹立に多くの努力を傾けたい」と述べた。韓国労総のカン・チュンホ国際局長は、「今回連合に会ったが、連合は日韓 FTA そのものに反対するというよりは、労働者・民衆に及ぼす影響を最小化することに焦点をおいていた」とし、「(たとえわれわれと立場の違いがあっても)日本の労働界と一緒にできる方法を講じることも重要だ」と主張した。自由貿易協定 WTO 反対国民行動の李鐘會(イジョンフェ)共同代表は、「日韓 FTA は超国籍資本による日韓両国の労働者・民衆に対する直接的な攻撃を超えて、アジア地域の労働者・民衆に対する攻勢の形で表れる」とし、「今回の闘争を契機としてアジア次元のブロック化に対抗する労働者・民衆の対抗ブロックを構築することが課題」だと指摘した。

日本側の実行委事務局の土松さんは「全国巡回で日本社会のあらゆる分野で FTA の深刻性を知らせていく計画」とし「日本の社会運動団体がわれわれと積極的に連帯するように努力したい」と話した。このようにこのワークショップでは、

▲　国会前に座り込み日本政府に抗議

様々な観点からそれぞれ今後の闘いの方向性が述べられたが、今回の共同闘争を契機に、日韓労働者・民衆の連帯闘争を強化して日韓ＦＴＡを阻止していこうという思いでは一致したのではないだろうか。

そして夜は、文京区民センターで、遠征闘争団の歓送会が開かれ、嵐のように過ぎ去った激闘の

▲　夜の渋谷で日韓 FTA 反対！を訴える

３日間が幕を下ろした。

大きな成果を残した１１月日韓共同行動

外務省は、通常交渉後に次回の日程と場所を発表している。しかし今回は、「今後調整する」としか明らかにしていない。これは、明らかに今回の抗議行動が、日韓両国政府に相当な衝撃を与え、次回も同じような激烈な抗議闘争に見まわれるのではないかという心配から交渉の日程も場所も明かにできないのであろう。労働者民衆に、交渉内容だけでなく、交渉日時や場所さえも明らかにできないということは、労働者民衆の労働権を奪い、生存権を破壊する日韓ＦＴＡの本質をより明確に物語っているのではないだろうか。

今回の行動について韓国闘争団は、ほんの序の口、小手先調べだと語っていた。実際、今年の民主労総の全泰壱さんの焼身抗議を追悼する全国労働者大会（１１月１４日６万人参加）の４大スローガン、２６日に行われたゼネスト（１６万人参加）の５大スローガンの一つに‘日韓ＦＴＡ阻止’が掲げられている。こうした闘いを踏まえて、来年の締結交渉の決定的な山場にはもっと大規模な闘争団が来日することが予想され、我々もまた韓国での交渉時にはより多くの人々が闘争団として訪韓しなければならないということが現実的課題として提起されている。

今回の行動の成果はなんといっても、具体的課題で交流や集会のレベルを超えて、共同闘争を取り組んだこと、またこれを通して信頼関係を築くことができたことをあげることができるだろう。

問題点としては、闘争の獲得目標は何か、闘争の水準はどう設定するのかなど、日韓の闘争の歴史や力量の違いからくる戦略、戦術についての考え方の相違、いわば日韓の闘争文化の違いとでもいうような様々の違いの克服と意思統一に多くの時間がかかった。また日本側でも、労働組合と市民団体の間でも、認識やスタイルの違いがあり、これらの擦り合わせに努力を要した。しかしこれらの問題は、いつでも起こる問題であり、また共同行動の積み重ねの中で時間はかかるが、十分に克服可能であり、又克服していかなければならないも問題だ。

最後に一言

これまでも、様々な課題ついて様々な形の日韓共同行動は取り組まれ、それぞれ成果を上げてきた。今回は、日韓ＦＴＡという新自由主義グローバリゼーションの攻撃に対して、このように大規模に共同闘争を取り組んだのは初めてだったのではないか。この行動を通して、日本側も大いに刺激を受け、ＦＴＡに反対する運動に労働組合が組織的に関わる大きな契機になり、反グローバリゼーションの闘いの戦線が大きく拡大した。

また、韓国闘争団の高い闘争意思と旺盛な闘争意欲も学ばなければならない点であるが、何よりも国境を超えてグローバリゼーションの攻撃に対してある程度の大衆的な参加の下で共同闘争をやったことは今回の大きな特徴だったのではないか。

資本の新自由主義グローバリゼーションの流れの中で、資本は自由に国境を飛び越え移動し搾取と収奪を繰り返している。これに対して、労働者民衆は、なかなか飛び越えられず、一つの国の中に閉じ込められ分断されて攻撃にされされている。資本が国境を自由に越えてグローバリゼーションを展開する時代に、労働者民衆の側は、一国の中に閉じこもっていては負けてしまう。労働

者民衆の側も国境の壁を越えて共同闘争に取り組んでこそ資本の攻撃に対抗できるのではないか。近年、ヨーロッパや南北アメリカでは、国境の壁を超えて、WTO 総会などグローバリゼーションの象徴ともいうべき場に対して、大規模な共同闘争が取り組まれ、グローバリゼーションに対抗する反グローバリゼーションの流れを眼に見える形で示し、グローバリゼーションの攻勢を阻んでいる。

一方アジアでは、そうした流れはこれまでなかなか形成されてこなかった。しかし今回、極ささやかな規模ではあるが、民衆運動の側が、国境を越えたグローバリゼーションの攻撃に対抗して共同闘争を臨んだことは大きな点ではないだろうか。

最近日本でも世界社会フォーラムに多くの人が参加している。今回の共同闘争は、こうした中で生まれたネットワークの中で、ムンバイでの世界社会フォーラムで種が播かれ、東アジア経済フォーラムに対抗する６月ソウル行動によって発芽し、今回苗木として成長してきたのではないかと思う。

この流れを止めてはならない。またこの流れをより大きくすることによってグローバリゼーションの攻勢を食い止めることができるのではないだろうか。

問題は、日本でこの流れをどう作っていくかだ。問われているのは日本の労働者民衆の反グローバリゼーションの闘いだ。

今、日本は、フィリピン（既に大枠合意）、タイ、マレーシヤとＦＴＡ締結交渉を進め、更にチリやブラジルとも交渉を開始しようとしている。また ASEAN などとも地域ＦＴＡを結ぼうとしている。まさにＦＴＡが経済的覇権を握る国家戦略の武器として使われているのだ。こうした時に、勿論個別の日韓ＦＴＡに対して徹底的に闘うことは大前提だが、個別日韓ＦＴＡだけを問題にしていても勝ち目がないことは明らかだろう。グローバリゼーションに影響を受ける様々な階層に働きかけ、グローバリゼーションに反対する様々な運動団体と協力して、日韓ＦＴＡ問題を含めて反グローバリゼーションの大きな流れを作っていくしかないだろう。

来年は、釜山で APEC 首脳会談が行われ、１２月には香港で WTO 総会が開かれる。アジアにおける反グローバリゼーションの流れを示す大きな場になることだろう。

差当たり来年１月にも多分行われるであろう日韓ＦＴＡ第７回政府間交渉に、そしてそれに引き続く締結交渉に対してどのように臨むのか大きく問われている。まずは多くの皆さんと協力して日韓ＦＴＡに反対する戦線の拡大に努力して行きたい。■

目　次

日韓 FTA 反対共同行動・・・・・・・　１
フィリピントヨタ全造船に加盟　・・・６
APWSL 書記局から　　・・・・・・・・９
レイバーフェスタ（関東/関西）・・１０
猪飼野と韓流　・・・・・・・・・・１１
中国・珠江デルタ労働者　・・・・・１２
中国・ニカド電池被害（続報）　・・１４
追悼　横山好夫さん　・・・・・・・１６
スウェーデンからこんにちは　・・・１８
英文ニュース発行　・・・・・・・・２３
編集後記　　・・・・・・・・・・・２４

フィリピントヨタ労組、全造船関東地協に加入！

フィリピントヨタ労組を支援する会

９月１７日トヨタ東京本社、２０日愛知本社へ団体交渉を申し入れる

フィリピントヨタ労組（エド・クベロ委員長）は 2004 年 9 月 16 日付で全日本造船機械労働組合関東地方協議会・神奈川地域労働組合（執行委員長石川秀夫）に加入しました。

そして、9 月 17 日にトヨタ自動車張富士夫社長宛に加入通知を提出すると同時に、団体交渉要求書も提出しました。これまでトヨタ自動車はフィリピントヨタ労組やわたしたちの争議解決の要請に対し、ことごとく「フィリピン現地の問題である」として、不誠実な対応に終始して来ました。しかし、フィリピントヨタ労組が全造船関東地協に加入したことにより団体交渉に応じなければならない立場になりました。トヨタ自動車があくまで団体交渉を拒否する態度を取り続けるならば、不当労働行為で神奈川県地方労働委員会に提訴する予定です。

－団体交渉要求書－

フィリピントヨタ労組（TMPCWA）が神奈川地域労働組合に加入したことにより、以下の要求を行います。

１．2001 年に行ったフィリピントヨタ労組（TMPCWA）組合員 233 名の解雇を直ちに撤回すること。
２．労使間の交渉ルールを確立すること
３．以上の２点について、２週間以内に団体交渉を行うこと。
４．団体交渉の出席者は：会社側についてはトヨタ自動車の社長或いはフィリピントヨタ担当重役が出席すること。組合側についてはフィリピントヨタ労組（TMPCWA）組合三役と上部団体である全日本造船機械労組関東地方協議会・神奈川地域労働組合の三役。
５．団体交渉開催場所は、トヨタ本社内としフィリピンから出席する場合の交通等関係諸費用は会社が負担すること。

トヨタ本社、団交拒否回答！！

わたしたちの団交要求に対してトヨタからさっそく団交拒否の通知が届きました。

▲9 月 20 日トヨタ愛知本社へ団体交渉を申し入れ

２００４年9月２9日
トヨタ自動車株式会社東京総務部（印）

通知書
２００４年9月１７日付けの当社宛団体交渉要求書の件につきましては、お申出の内容は、フィリピントヨタ自動車株式会社の元従業員に関わるものであり、当社は、貴組合と交渉する立場にありませんので、その旨ご通知申し上げます。
以上

フィリピントヨタ各出資会社の反響

フィリピントヨタ社への出資会社であるメトロポリタン銀行・UFJ 銀行・三井物産にも「全造船加入通知と団体交渉開催要求」を申し入れました。

各社の返事は
①メトロポリタン銀行；「申し入れ書」は郵送してくれればフィリピン本社へ送る。返事が来るかどうかは分からない。
②UFJ 銀行；メトロポリタン銀行への UFJ の出資内容については話す立場にない。
③三井物産；１５%出資しているが、マイナーであり権限がまったく無い。(自動車第 3 部　アジアトルコ部)

というものでした。トヨタ社と併せ神奈川県地方労働委員会へ不当労働行為提訴の準備を開始しました。

10 月 25 日付け TMPCWA 最新ニュース

TMPCWA が全造船に加入して以来、会社側は「加入」の事実と日本での訴訟という大きな課題にどう向き合おうか、方法を探り続けているようである。

組合に対する会社側のキャンペーンはさらに強化されている。サンタロサの全部署では、1 時間の休憩を利用した短い討論会が開かれた。通常はこの時間、監督者やマネージャーらは生産ラインの近況などを発表するのだが、今はこの時間を組合に対する話し合いを持つ機会として利用している。

我々と OIC(工場内組合役員)とのミーティングにおいて、会社側による内密の議論があったことが明らかにされた。人事部副部長であるアリガダ氏が、現場監督やマネージャーに対し、TMPCWA の組合員全員と TMPCWA に共感する者で会社の規則に従わない者は、評価（1）を与えられなければいけないと言ったそうである。評価（1）とは成績が非常に悪いという意味であり、これが解雇の正当な理由として使われる恐れがある。

これが日本やインターネットで流れるビクータン工場とサンタロサ工場の統合のニュースの裏に隠れている事実である。会社側はこの統合によって人員削減はしないと言いながら、実際は従業員を合法的に解雇するに十分な計画を用意しているのである。

組合員らは TMPCWA が全造船に加入したというニュースを非常に喜んでくれている。我々の月例会では、加入のニュースを知らなかった者が特に、現在の TMPCWA の状況に大きな発展があった、と喜びの言葉を口にしてくれた。

組合サイドは今日また新しい試みを準備している。OIC の一人が朝の体操時を利用し従業員の前でスピーチをするのである。我々はこのために昨日ミーティングを持ち、その中でいくつかの手法を考え、スピーチの要旨を作成した。

そして今、スピーチが終わったという電話と携帯メールを OIC より受け取った。従業員らは全員手をたたいて、舞台の前のマネージャーらは怒った顔で OIC を見ていたということだ。他の組合員らは、マネージャーらがスピーチの直後に行動を開始している、という情報を伝えてきている。これこそ、以前に我々が行ったパンフレット配布という“静かな語り" でない、本物のあるべき姿のキャンペーンなのである。

以上。
労働者のために　エド　クベロ

１２月１日「東京けんり総行動」
トヨタ東京本社へ団体交渉を申し入れる

１２月１日「東京けんり総行動」の参加者はトヨタ東京本社へ「申入れ要請」を行い、その後三井物産、UFJ 銀行、メトロポリタン銀行を順に要請を行いました。トヨタに対しては「団交に応じないのなら不当労働行為で神奈川地労委へ申立てる。」、 三井物産に対しては「株主としてフィリピントヨタに早期解決を進言せよ。」、UFJ 銀行では「メトロポリタン銀行への資本の出資率を教

▲　12 月 1 日の東京けんり総行動

えよ。」、メトロポリタン銀行へは「本社会長に団交に応じろとの申し入れがあったことを伝えよ。」以上を申し入れました。

トヨタ以外は誠意ある対応でした。トヨタは従来に無く口が重く、口数も少なく、仕方なく対応しているとの印象でした。

２００４年１１月１９日
トヨタ自動車株式会社
東京総務部企画サービス室企画グループ長
今井 貴之 課長殿

フィリピントヨタ労組争議に関するトヨタ東京本社への申し入れ要請のご通知

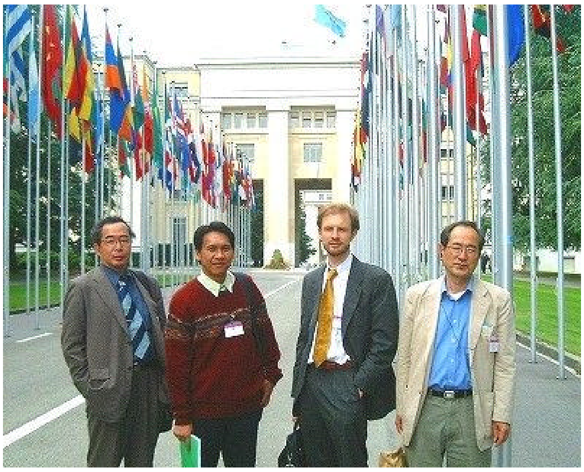
前略
私たち『１２・１　東京権利総行動』参加の各労働団体・市民団体は来る１２月１日（金）午後１時３５分頃より貴社に対して、貴社が全造船関東地協神奈川地域労働組合との団体交渉（フィリピントヨタ労組争議早期解決要求）にすみやかに応じるように「申し入れ要請」を行う予定であります。
申し入れ代表団は通例通り６名程度を予定しております。何卒宜しくお願い申し上げます。
草々

フィリピントヨタ労組を支援する会

ＩＬＯ結社の自由委員会フィリピン政府に勧告提出

ＩＬＯ結社の自由委員会は１１月、フィリピントヨタ自動車労働組合の提訴に関してフィリピン政府に対し以下の勧告を提出しました。

（1）公正で独立し、かつ迅速な承認過程と、雇用者による妨害行為に対する保護の提供を可能とするよう国内法を改正すること。
（2）労働法の第 263 条 g 項（注）を改正すること。
（3）TMPCWA とフィリピントヨタ自動車社による誠意ある交渉を可能とするべく何らかの手段をとること。
（4）解雇された 227 名の復職、さもなければ十分な補償金の支払いを考慮する話し合いを開始すること、である。
委員会は以上の点に関し、政府の十分な認識を求める。



▲　ILO 総会会場まえにて

（注）フィリピン労働法の第 263 条は「ストライキ、ピケット、及びロックアウト」について定めた条項です。g 項は国が介入阻止出来ることを定めています。

ＡＰＷＳＬ書記局から

総会は来年３月開催予定

共同議長のルーク・コクスンから各国委員会宛てに総会開催についてのメールが 11 月 18 日送られてきました。

ＡＰＷＳＬ会員の皆さん

私たちは来年の３月にＡＰＷＳＬ総会を開催するという計画をまだ持ち続けています。総会の前に真正労働運動についてのＴＩＥ（多国籍情報交換）アジアの会議が行われます。12 月中旬まで日程は確定しません。現在ＡＰＷＳＬの銀行口座には 5000 米ドルしか残っていません。ＴＩＥアジアは参加者の一部の旅行費用を援助できるかも知れないと伝えてきています。どちらにせよ金銭的には大変厳しく、旅行費用を負担できるとしても各国一人までです。

自ら参加費用を負担できるかどうか知らせて下さい。もし負担できない場合は一人分の飛行機代の金額を知らせて下さい。またもし誰が代表で参加するのか氏名を知らせてもらえればうれしい。この氏名報告を優先して下さい。

Ｅメールの調子が悪くメールが届かないことがあるので返事は次のアドレスにも送って下さい。apwsl_nz@slingshot.co.nz

この各国委員会宛てのメールの前に 10 月 26 日付けで日本委員会宛てのメールもあり、その中では総会開催について上と同じ内容があり、続いて次のような通信がありました。

現状を改善できなければＡＰＷＳＬの存続はできないというのが私の考えです。資金なしにこのネットワークを運営するのは非常に困難なことが分かりましたが、残念ながらこれが我々の置かれている現状です。ムンバイ会議は非常に良かったが、その後便りがあり活動報告を送ってきたのはタイと日本だけです。これにはがっかりしました。

ネットワークを再活性化するのに必要な活動を日常的に行う専従の調整委員がいないので、ＡＰＷＳＬは死にかかっています。私自身の仕事と家庭の圧力がきつく、事態を動かし始めるのに必要な時間が取れません。

現在の書記局（私とスリパイとアントン）は来年の総会では再立候補はしないことをお伝えします。ＡＰＷＳＬが必要としているのはその国の委員会により充分に支持されていて、再活性化のために必要な時間を割くことができるよう調整委員だというのが私の意見です。

さらに必要なのははっきりとした達成可能な計画であり、各国委員会がその実行に責任を持つことです。このどちらも現在の書記局には欠けています。（アントンはこのような仕事に割く時間がなく、お金がなく、計画もはっきりせず、韓国委員会の連帯計画以外には積極的に計画を担おうとする国がなかったことも要因です。）

この点についての日本委員会の見解を聞かせてもらえば嬉しい。日程についてできる限り早くお知らせします。

東西でレイバーフェスタ盛況！

私の運動の原点を見た
レイバーフェスタ 2004 報告

出版労働者　A.H

12 月 4 日、東京レイバーフェスタ 2004 が第一部が中野勤労福祉会館、第二部が中野ゼロで行われ、300 人の参加者を集め、成功裡に終了した。レイバーフェスタ労働運動の魅力を文化的なところから伝えようという主旨のもと、2002 年から年一回開催され、今年で 3 回目となる。

第一部は映像メッセージとして恒例の公募した 3 分間のビデオを上映したり、アメリカやフランスの労働運動の現状を撮ったビデオ作品を上映した。3 分間ビデオ作品の中で私が一番印象に残っているのは、ジャパン・ユニオンの「組合結成!」という作品だった。内容は、解雇された人が経営者に団体交渉を求めて会社の入り口付近で言い争いになっている様子を映したものだった。特にこの作品はフェスタのなかでは注目されたものではなかったが、もう 4 年前に解決したけれども、私は不当解雇され 5 年半争議を闘ってきた経験があり、その時の思いと重なって、見ていて涙があふれた。映像では、社長の妻(副社長)が、「話しあうことはないからお帰りください」というような事を言い、不当解雇された人が「一生懸命仕事をしてきたのに、話し合いもしないでいきなり解雇するなんてひどいじゃないか」と必死で訴えている。私が労働運動に関わりはじめたのは、全く同じような経験をしてきたからだった。私にとって、その時の怒りと悔しさが労働運動をする原点になっている。

レイバーフェスタの第二部では、マイケル・ムーア監督の「ロジャー&ミー」が上映された。ムーアの故郷・フリントの町でおこった工場移転での従業員の大量解雇により、町全体が荒廃してしまうというドキュメンタリー映画だ。映画の中で怒っているのは、ムーアと少数の(本当に少数の)労働組合員だけで、大半は泣き寝入りをしているように見える。私はこの映画を見終わった時、正直、悲しくて虚しい気持ちになった。何故、大半の労働者は闘わなかったのだろう。解雇したジェネラル・モータースのロジャー・スミス会長に怒りを伝えようとするのは、ムーアではなく、解雇された労働者であっていいはずだ。

私はこのレイバーフェスタを初年度から実行委員として企画から参加してきた。今回も賛同要請やチケットの販売であちこちの労働組合にお願いしに行ったが、ある組合の人に「賛同することに組合としてのメリットがない」と言われたりもした。組合としてのメリットとは、その人にとっては組織拡大のみだったのだろうが、労働組合の目的は組織拡大だけだろうか。そもそも、メリット論では運動はなりたたない。頭ではそう考えても、気が弱っている時にその「メリットがない」という言葉を思い出すと、とてもやりきれない気持ちになっていた。フェスタの前日まで、その呪詛のような言葉にまとわりつかれていたような気がする。

けれど、フェスタ当日、たくさんの人が集まってくれて、そして 3 分間ビデオで自分にとっての運動の原点を見た。映画「ロジャー&ミー」では、労働者が闘えなかった事実を見た。大半の労働者が自分たちに権利があることを知らなければ、経営者の言いなりになるしか道が見えないのかもしれないと思う。実際に権利を求めて闘っている人は日本にも世界にもたくさんいる。悔しい思いをたくさんしても、求めてきたものを勝ち取ることができた時の喜びは大きい。レイバーフェスタでは、その中での感動をたくさんの人に伝え、労働運動の大切さや重要性を訴えていけたらと思う。フェスタの途中で私はとらわれていた「メリットがない」という言葉から解放された。レイバーフェスタの 3 年目で少しずつではあるが、実績をつめたと感じることができた。何かを作り上げることは大変な作業もあるが、やりとげた充実感と一緒に作りあげた仲間の笑顔は何ものにも替えがたい。迷いながらではあるが、今後も労働運動をしながら、そのすばらしさを伝えていきたいと思う。

関西初のレイバーフェスタ

山原　克二（ゼネラルユニオン）

サンフランシスコで始まり、東京で回を重ねたレイバーフェスタが、１２月５日ついに大阪でも開催された。主軸となっている「レイバーネット・日本」が、韓国・日本のＡＰＷＳＬと共に、「レイバーネット・アジア」を立ち上げんとする今、その前の関西進出は、不可欠だったとも言える。さて東京の経験を生かし、半年前から、会場やフィルムの準備をしてきた成果が、東京フェスタの翌日、いかんなく発揮された。定員が２百名近い「クレオ大阪中央ホール」であったが、ほぼ満員の参加者であふれた。

まず開幕は、ユニオン座の「アンバランス」で、大阪の各ユニオンの女性たちが中心の創作劇だ。非常勤の解雇をめぐるリアルな表現に、会場でも大うけであった。そして次に、マイケルムーアの長編ドキュメンタリー「ビッグワン」が上映され、一般の劇場で上映されていない初公開ということもあって、「マイケルムーアは、優秀な俳優で、監督で、制作者。そしてパフォーマー」と、みんなが絶賛してくれた。そして注目の「公募３分ビデオ」が次々上映された。その数、何と 18 本で、うち関西制作は 7 本。初めてで、集まるかどうかが心配されたが、市民メディアネットや、映像集団アカメが、秋から「ビデオ制作講座」を開講し、企画・撮影・編集、と学習してきたたまものである。関東作品より、素人っぽかったかもしれないが、逆に、「来年は自分も応募してみよう」との意欲を誘ったようだ。最後に、作品の制作者・主人公でもある、解雇された非正規女性の小谷さんや、女性差別と永年闘ってきた住友の石田さん、そして東京から駆けつけてくれた映画評論家の木下さんから、ライブでアピールを受けた。

会場からの、笑いや拍手が絶えず、かつ、女性の参加と、夫婦連れがめだつ、気持ちの良い上映会となった。次々にこれでもか、と登場する「あなたの仕事、私の権利」をテーマとする映像の一挙上映のインパクトがものすごい、珍しいイベントとなった。

コリアタウン「猪飼野」と「韓流」

山原　克二（ゼネラルユニオン）

７人にひとりがコリアンという大阪市生野区にある猪飼野は、日韓併合時、連絡船「君が代丸」が大阪をめざしたことから、圧倒的に済州島出身者が多い。彼ら彼女らへの差別や日帝の植民地収奪は、過酷そのものであったろう。韓国から最近来たＮＧＯの青年は、生野の感想を、「セピア色の映画で見た戦前のソウルのようだ」と表現した。マイノリティが差別偏見と闘うことは、それほど、家族関係や冠婚葬祭などの宗教や習慣の伝統を固持することであったかもしれない。今でも、いや今だからこそ、出身の道民会や教会以外にも、総連・民団が軒を連ね、また、高麗労連やコリアＮＧＯセンターなどユニークな民族団体が共存している。

韓国からのニューカマーも増えてはいるが、東京や大阪のど真ん中に居住する場合が多い。「ワールドカップで沸く猪飼野」が何度もＴＶ中継されたが、ブームはすぐさめ、今度は「韓流」だそうだ。朝鮮市場に、ペーヨンジュンの写真が飾られ、冬ソナグッズの店も開店した。近隣は、豚足やチジミ店である。でも、韓国春川市のロケ現場も、同じ食品の屋台が並び、その前は広大な米軍基地であるそうだ。美しいドラマで韓国のイメージが変わり、偏見がなくなった、というが、そんな甘くはない。したたか、かつ粗野で汚れた猪飼野の実相は、「血と骨」がよく表現している。韓国の歴史と現実は「ブラザーフッド」「シルミド」「ＪＳＡ」が完璧に示している。

猪飼野にはもともと、南北も 38 度線もない。法事で集まる一族はイデオロギーを越えてきた。しかしそんな風土にも、拉致問題は重く重く、覆いかぶさったままである。在日団体は苦闘し、日本人社会との関係もデリケートだ。

とはいえ、百聞は一見にしかず。現地訪問でロマンから覚めるのも、また良し。冬ソナツアーで訪韓するんだったら、猪飼野ツアーにも来て下さい。歴史探訪、韓国庶民料理や買物、在日活動家交流など、ＡＰＷＳＬ関西で親切にガイドいたします。

ゼネラルユニオン　山原　克二
０６－６３５２－９６１９
yamahara@generalunion.org
URL: www.generalunion.org

珠江デルタ労働者　労働組合への長い道のり

【解説】以下は、香港のチャイナレイバーブレチンの韓東方のラジオ番組のなかで放送されているコールインコーナの翻訳である。争議などのあった企業や政府機関、そして当該の労働者などに直接電話をかけて生の声を聞くというコーナーである。ラジオの他、ウェブ上でも聞くことができる。

中国経済を牽引してきた広東経済圏では、中央から遠く離れていることによる「自由」な経営裁量権、香港に隣接するという外資導入の容易さという地の利、そしてなによりも広大な農村や低所得地域を後背地とした低賃金悪条件で働く出稼ぎ労働者の絶え間ない流入によって、その地位を不動のものにしてきた。しかしいまこの広東で約 200 万人の労働者が不足しているという調査結果が出ており、実際おおくの委託生産工場の入り口には「労働者募集」という張り紙があちこちに貼られている。

専門家は、今年に入って政府が農家への収入補てんをおこなったり、一部の農作物について優遇措置を取った結果、出稼ぎが減ったことの他に、10 年にわたって平均賃金が上がらず、労働条件も劣悪で、労災も多発し、差別的待遇を受け入れなければならない出稼ぎ労働に突きつけられたレッドカードであると分析する。

広東省政府は 11 月 1 日付で、10 人以上の連名による申請で組合を結成できるという地方法を施行（上級機関は総工会）、また広東省人民代表大会は 11 月末に開かれた議会で、未納賃金支払い条例を制定し、出稼ぎ労働者の不満の最も高い賃金未払いの一掃を図ろうとしている。これらの措置が、どの程度の効果があるかは未知数である。（解説／翻訳　稲垣）

---

11 月 8 日付けの『南方都市報』によると、広州市番禺にある電器工場の 1000 名近くの労働者が 11 月 7 日からストライキに突入してた。ストライキの理由は、一週間休みなしで毎日 12 時間の労働にも関わらず、月給は多くても 600 元にしかならないこと、その上賃金支払いが一ヶ月遅れていることに抗議したものである。記者が何人かの労働者の発言を紹介したところによると、オーダー生産がどんどん増えていく一方で、労働者の待遇は全く改善されない、ストライキの目的は生産が増加して工場が繁盛しているときには労働者の待遇も改善するべきである、ということを経営者に分からせようと考えている。番禺区政府総務課の職員は電話で、管轄外のことだと語った。

政府：よく分かりませんが、私たちの管轄ではないでしょう！
韓東方：ですがあなたがたの部門は、突発的な事件はこの部署が管轄するということになっていますよね。
政府：ですが、まだそういった情報は入っていませんので、お応えすることはできません。

〜〜〜〜

番禺区地域総工会の事務所の役員は、当該工場に組合が存在したのかどうかについての明言を避けた。

役員：われわれの組合では区政府の関連部門と協力して対処している最中です。
韓：当該労働者の要求はなんですか。
役員：具体的には・・・、とにかくいまそういった事については処理している最中なんです。よろしいでしょうか。
韓：その工場には組合はありますか。
役員：いや、その・・・そういったことは今あなたにお答えする必要はありませんので、もういいでしょう！

〜〜〜〜

工場所在地の東環派出所の宿直の警官は、昨日この工場へ別の件で行ったときに見かけた労働者たちは特に過激な行動をとってはいなかったという。またこの警官によると、工場の労働者の多くは広西省と湖南省から出稼ぎに来たもので、一番若い者は 16 歳だという。

派出所：かれらもべつに悪さをしていたわけではない。たんに出勤していないだけでしょ。
韓：ストライキということでしょうか。
派出所：そう、ストライキだね。工場に残ってたけど仕事をしない。けどべつに過激な行動なんかもなかったよ。ある労働者なんか 16 歳、88 年生まれか 87 年生まれで、ある小僧なんか今年の五月か六月に中学を卒業して、９月には働きはじめた。だいたいみんな広西や湖南からきた人間だよ。

〜〜〜〜

『南方都市報』でこの事件を報道した記者、戎明邁は、ストライキの現場に駆けつけたこと、そして記事では労働者自身の話しを紹介したことを明らかにした。

記者：だいたい労働者から聞いたことなんです。われわれが駆けつけたときにはもう人はまばらでした。新聞でも「労働者によると」って書いていたでしょ。
韓：では労働者と直接話しをしたということですか。
記者：そうそう、そのとおり。

〜〜〜〜

東環通りにある地域総工会の何委員長は、報道は誇張されていると憤った。また長時間の残業が違法かどうかについては、はっきりとせず、工場に組合があるのかどうかも明言を避けた。

委員長：見事解決しました。全員仕事にもどりましたよ。
韓：全員ですか。
委員長：ええ。
韓：いつ仕事に戻ったのですか。
委員長：月曜の朝には。
韓：「南方都市報」の報道では、昨日の段階ではまだ・・・
委員長：まったくしょうがない。そんなのはでたらめで、ただ騒ぎ立てているだけですよ。
韓：この工場の労働者は毎日朝の８時から夜の１０時まで働いてたんですよね。
委員長：そうですね、彼らによるとそういうことです。ですが、残業は毎日ではないし、一部の工場では残業しないといけないことも確かですし。
韓：ということは毎日残業もあるということですか。
委員長：オーダーがはいれば残業する。オーダーがなければ残業をすることはないでしょう。
韓：工場のこういった状況は労働法に違反はしていないのでしょうか。
委員長：はぁ？
韓：ですからそういう状況は労働法に違反してはいないのでしょうかと聞いているんです。
委員長：というと？
韓：法律に照らしあわせると、ということです。
委員長：残業代はあるでしょう。
韓：一時間当たり２元〔２６円〕の残業代は低すぎませんか。
委員長：君は・・・こんど時間のある時にでも来なさい。そのときもういちど話そう。わかったね。
韓：この工場には組合はないのですか。
委員長：はぁ？
韓：この工場には組合はあるのですか。
委員長：民間企業なんだ、何を言ってるんだ。

〜〜〜〜

この工場の労働者によると、１１月９日の早朝、工場の経営者が労働者を集めて会議を開き、改善策を提示した後、二日間続いたストライキは終了した。

労働者：経営者がでてきて、その部署の管理者と会議を開いて、今朝は工場全体で集会を開き、改善措置を発表したので、ストライキは終わりました。１時間２元の残業代が、いまは３元になりました。
韓：残業時間は。
労働者：残業時間はふつうは１０時ごろまでですね。
韓：ストライキのあとでもかわらずですか。
労働者：残業は必要です。すくなくとも１０時ごろまではやらないと。
韓：残業時間は減らなかったけど、残業代はあがったと。
労働者：ええ。
韓：ストライキはいつから始まったのですか。
労働者：日曜日からですね。
韓：日曜日から始まったのですか。（次の頁へ）

労働者：ええ。日曜の朝から出勤せず、昨日も出勤していません。

この労働者は、彼が半年前にこの工場で働きはじめてから国慶節（十月一日の建国記念日で約１週間の休みになる）の二日間、それに他の一日の合計三日間しか休んでいないことを語った。多くの労働者がこのような状況が労働法に違反することを知らないという。

労働者：朝８時から夜１０時まで、ときには１０時半や１１時になるときもあります。あいだに２時間の休みがあります。１２時間です。
韓：１２時間ですか。
労働者：ええ。
韓；日曜や土曜も休みはないのですか。
労働者：ありません。経営者は一ヶ月に１日か２日はあるとは言っていたのですが。
韓：この工場で働いてどのくらいになりますか。
労働者；半年にもならないですが。
韓；その間、何日休みがありました？
労働者：この半年で休んだのは・・・国慶節に二日間、それだけです。あと一日休暇がありましたから、休んだのは三日です。
韓：「休暇」とはどういう意味ですか。
労働者：給料が支払われないということです。
韓：えぇ！休暇だと給料ナシですか。
労働者；ええ。
韓：それは労働法違反ですが、知っていますか。
労働者：知ってるけど、他の人は知らないでしょうね。
韓：工場には組合がありますか。
労働者：聞いたことないですね。
韓：11 月 1 日から、広東省で労働組合法実施法が施行され、10 人以上の連名で組合を結成できることになったのを知っていますか。
労働者：それは初耳です。
韓：地域の総工会へ行って、関連規定をもらって、あなたの工場でも組合を組織できるかどうか試してみるということは？
労働者：うーん、なんていえばいいのでしょうか。個人としてなら、・・・そういう資料をちょっと見てみてもいいかなと思いますけど。あなたの会社では組合結成の動きはありますか？ なかにはその気のない従業員もいて、いまの状況で満足しており、それ以上は望まないというのもいるし。

（以上）

続報　中国・ニカド電池汚染被害

香港の市民団体が資本側に補償などを求めて会見

【解説】リンクス前号で紹介した中国広東省恵州にある香港資本 GP グループの電池工場でカドミウム汚染被害について、香港のグローバルモニター〔全球化監察〕が継続した支援を続けている。9 月以降、恵州の二つの工場ではさらに 36 人もの労働者が、カドミウム含有量の基準を超えたという検査結果を受けて入院している。また現地の労働者によると、事件発覚以降も工場の安全衛生は改善されておらず、労働時間も一日 12 時間（朝 8 時から夜 8 時）に基本的な変化はない。また労働者の子どもも尿検査が基準値オーバーの結果が出ていることから、不安が広がっている。12 月に入り、グローバルモニターの代表と GP グループの経営陣が会見し、意見交換をおこなった。以下は、その後に出されたグローバルモニターの声明である。GP 電池は日本にも大量に輸入されており、家電やおもちゃの付属電池として消費されている。〔解説/翻訳：新田和夫〕

【声　明】

（1）すでに深センのＧＰ工場だけでなく、東莞のＧＰ工場でもカドミウム含有量が基準値をオーバーした労働者がでたことが知れ渡っている。中毒事件はすでに個別地域の工場の問題ではなくなっている。ＧＰグループは中国に１１の電池製造工場を持っている。東莞に２社、恵州に４社、深センに２社、上海浦東地区に２社、寧波に１社である。

これまでに明らかにされた恵州のＧＰ工場２社（超覇工場と先進工場）では、千名以上の労働者が検査を受けてきた。そして現在まだ９８名が入院中である。この二社は最も被害の深刻な工場であるが、他の工場の労働者はどうであろうか。同じような被害を受けてはいないのだろうか。メディアの報道によると、１１月２９日に深センの捷覇電池工場で多数の労働者がカドミウム含有量の基準値を大幅にオーバーした。そして東莞超覇電池工場でも同じような事態が発生している。

東莞の超覇工場では８月２６日にカドミウムに接触してきた１００名以上の労働者が血液と尿の検査を受けた（この工場には１０００名をこす労働者が働いているが、ボタン電池を主要に製造していることから、カドミウムに触れる作業は余り多くない。一部の熟練労働者はかつて恵州の超覇工場で働いていたことがある）。１０月２６日になっても労働者は自分の診断証明を手にすることができなかった。工場は労働者を集めて会議を開き、今回の検査は二つのグループに分かれてうけたが、一方は多くの基準値オーバーが出たが、もう一方はほとんどでなかったので不正確である、再度検査を受けなおす、と発表し、その日のうちに検査が行われた。しかし今日にいたるまで労働者は検査結果を見ていない。ある労働者が聞いたところによると、今回の検査では基準値オーバーは非常に少ないという。

労働者は疑問を持っている。ます最初の検査結果を誰も見ていないということ。そして最初も二回目も、二ヶ月後にしか結果が分からないということ。三つ目に、労働者の話しが本当だとすると、一回目とに回目の検査結果があまりに違いすぎるということ。

（2）２００４年１１月２６日、ＧＰグループの羅仲栄など経営陣とグローバルモニターの代表が会見し、お互いの立場および問題点を出し合った。ＧＰ側によると基金の設立を準備しており、民間団体にも基金に参加してもらうことを検討しており、また関連する労働安全衛生および労働者の権利についての研修などを行うとしている。

グローバルモニターの代表は、それらの約束に具体的なタイムスケジュールがないことを批判した。労働安全諮問委員会の選挙という極めて容易な事項さえもいまだ実施されていない。ＧＰからは、現在経営の全体的な改革を検討中であり、それが確定してから具体的なタイムスケジュールの策定作業に入ると説明された。グローバルモニターの代表は、全体的な改革と部分的に関係する措置を実施することは矛盾するものではなく、同時進行が可能であると批判した。羅氏は、それらの意見を再検討することも可能だという見解を示した。

グローバルモニターは以下の要求を提起した。

１．基金は少なくとも１千万香港ドルを下回らないこと。基金の事務局は直接的にも間接的にもＧＰグループがコントロールすることはできない。グローバルモニターはこの基金の事務局には参加しない。

２．カドミウム含有量と中毒の状況については、独立した第三者機関による検査をおこない労働者の不安を払拭すること。

３．GP グループは、香港の 33 の団体から出された諸要求に対して明確な回答をおこなうこと

４．GP グループは今すぐあるいは近い将来において救済措置をとることを発表し関係者の不安を取り除くこと

５．GP グループは、市民団体と正式に面会して、今すぐあるいは近い将来において救済措置をとることを説明すること

香港グローバルモニター
2004 年 12 月 6 日

追悼　　　　横 山 好 夫　　さん

「新左翼労働運動の旗手」横山好夫さんを偲ぶ

高幣　真公（APWSL 日本運営委員）

10 月 22 日夜、東京で４月末に突然事故死された横山好夫さんを偲ぶ会が開かれた。彼の所属した全石油ゼネラル石油労組はじめ石油３単組や彼が関わった『労働情報』や 10 月会議のメンバーなど友人たちと洋子夫人など 70 人ほど集まった。

偲ぶ会と同時に追悼集も発行され、その呼びかけ人を代表して元『労働情報』編集人の樋口篤三さんが、日本で初めて発生源企業の労働者が公害を告発した 1970 年に始まったゼネ石闘争の歴史的な意義を話した。またベトナム戦争反対や三里塚闘争など政治的な闘争に積極的に関わったことも高く評価した。そして、若い世代が担ったゼネ石闘争は新しい反独占の闘争として 70 年代以降日本の労働運動に大きな影響を与えたと指摘した。

横山さんと一緒に闘った多くの人が彼について発言した。横山好夫さんは常に冷静であり、時に激しい情熱で闘ったが、仲間たちには優しく温かであったと多くの人が語った。また多くの人が彼から多くのことを学び、勇気付けられたと話した。閉会の挨拶で元東京東部労組委員長の足立実氏は「彼は決して死んではいない。ここにいる皆が横山さんの理念と闘いを語り続ける限り、彼は生きている」と結んだ。

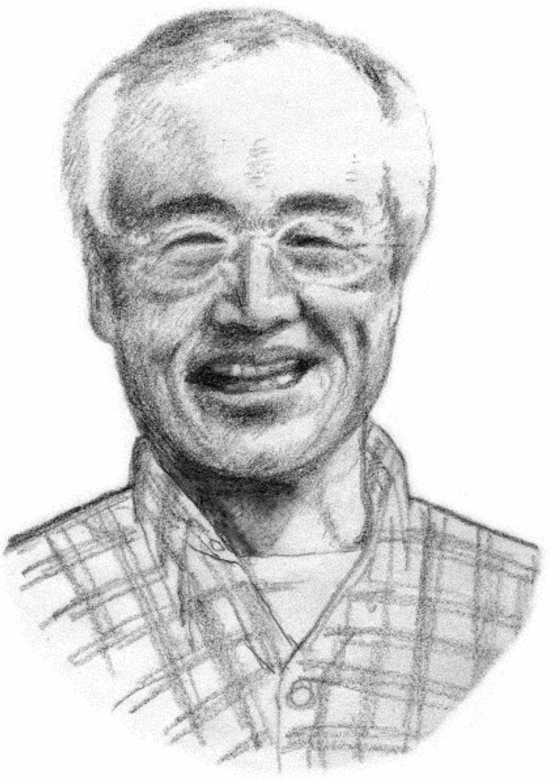
横山さんは APWSL 日本の発足時からそのメンバーであり、亡くなった時には会計監査を務めていた。ご冥福を祈ります。

＊　追悼集『追悼・横山好夫』（72 頁）をご購入ください。

　　頒価　1,000 円

　　申込先：電話 047-467-1925、FAX 047-467-1966

　　Ｅメール takaheim@jca.apc.org）



樋口篤三氏（元『労働情報』編集人）による追悼集の紹介

『追悼・横山好夫』をお送りします。彼はこの４月に突然ぽっくり亡くなり、皆たいへん驚きました。仲間の中でもっとも元気で毎日プールに通っていた、その水泳中でした。私より一まわり若い 64 歳。仕事も人生もこれから円熟期に入るというのに。私と彼は 1970 年の「ゼネラル石油闘争」いらいの戦友です。

（1）この闘いは私の半世紀強の労働・社会運動で忘れられないはげしく困難なものでしたが、彼ら指導者と組合員一体のみごとな団結で勝利しました。その内容は、日本労働運動史の輝く一頁だったと思い本集に日本労働運動史に刻印したゼネ石闘争―横山好夫による「後世へのおくり物」―を書きました。

（2）私が編集長をつとめた『季刊労働運動』―『労働情報』は私がこの肩書きで全国に呼びかけた―と高野実の思想と志をついで発刊した第３期『労働情報』と初代編集長の２つを彼が引き継ぎました。

（3）「新左翼労働運動」は、1970 年頃に大資本が制覇した民間大手の中で流れに抗して少数派運動、

特に少数派組合で闘い、その存在を示しました。それから30余年の風雪の中で多くが「自然消滅」を余儀なくされてきた。ゼネ石労組は、新陳代謝しつつ生き残り、機能している先端労組となっています。

ご一読いただければ幸いです。（工場内闘争の写真も隔世の感あり、です）

『追悼・横山好夫』目次

発刊に当って
【Ⅰ】　著作選集
1　会社をはなれても生きていくんだー少数派組合への差別支配(「新日本文学」1975年11月号)
2　三里塚闘争を労働者の〃タテマエ〃に（『季刊労働運動』1978年16号）
3　斬りむすぶための準備を(『季刊労働運動』1980年23号)
4　市民運動の過激さに期待(『労働情報』1981年5/1 №.92)
5　分裂――60年から90年 特集を組むにあたって(『労働情報』1991年9/1　No.341・2)
6　1970年―全国一般長崎連帯支部三菱長船労組 長崎では時がゆっくり流れる(『労働情報』1991年9/1No.341・2)
7　摩天楼裂く銀翼の報の朝 世界革命追いし君逝く(『夢を追ったリアリストー今野求追悼文集』2002年9月)
【Ⅱ】　横山好夫の書き残したもの　―　その執筆目録　―　渡辺　勉
【Ⅲ】　日本労働運動史に刻印したゼネ石闘争―横山好夫による「後世へのおくり物」―　樋口篤三
【Ⅳ】　追悼文(44人)
「降伏式」のこと

横山好夫さんの思い出

山崎　精一（「リンクス」編集長）

高幣さんから追悼集に原稿を依頼されていたが、忙しさにかまけて書かずに終わってしまった。その罪滅ぼしにこのリンクス誌上で横山さんの思い出を書いてみたい。

横山好夫さんは私にとっては大先輩でいわば雲の上の人であった。『公害発生源労働者の告発』が出版された時私は学生だったが、この本を読んだ、かどうか記憶がはっきりしないが、この本を手に取ったことは確かで、公害と闘う先進的な労働者がいるという事実とゼネ石、横山、小野木という名前は記憶に残っていた。

その後、清掃の職場の運動に入り、横山さんが活躍された十月会議や労働情報などの動きを遠くから眺めていた私は、当然横山さんと出会うこともなかった。それがＡＰＷＳＬと関わるようになり、横山さんの名前に触れるようになったが、実際に最初にお会いしたのがいつなのかもはっきりしない。どこか大きな集会でのことであり、しばらくは個人的に話をする機会もなかった。

初めて横山さんと親しく話したのは十年近く前のことである。当時私は英文機関紙の編集長をしていて、その日本語版を発行したり、読者会を企画したり、この媒体を活用しようといろいろ努力していた。その一つがこの英語機関紙を読んで英語を勉強するという形で読者会を開くことであった。毎回数人で細々と続けていた。そこにある時、横山さんがひょこっと参加してきた。こちらから声をかけた訳ではない。多分どこかで案内を見て自分から参加したのだ思う。私はこの「偉い」人の出現に緊張したが、横山さんは気さくに質問したり意見を言ったりと、積極的に参加してくれて、私はほっとした。と同時に横山さんの英語力の高さにびっくりした。小野木さんが英語できるということは回りの人から聞いていたが、横山さんについては知らなかったからである。

横山さんはＡＰＷＳＬの運営委員などの中心的な役割を担うことはなかったが、会計監査を最後まで務めてもらっていたし、ＡＰＷＳＬの活動をよく見守ってくれていたのだと思う。読者会への参加もその現われだし、2年前の秋に野田市の清水公園で芋煮会をやった時にも、近くだからといって飛び入りで参加したのも懐かしい思い出となっている。この時に様子はリンクス３４号に紹介されている。

横山さんと一番親しくつきあったのは『ユニオン・バスター』（緑風出版）の翻訳作業を通じてである。この本は横山さんと渡辺勉さんの共訳で2000年に出版されている。当初私はお二人の訳稿に目を通して手を入れるという役目を引き受けていた。当初というのは、途中でこの翻訳点検作業が余りに大変なのに音を上げて、野田健太郎さんに仕事を引き継いでもらい、私は役目ご免させてもらったからである。

横山さんの原稿を読んでみて、今度はその「翻訳力」の高さに驚いた。英語を日本語に翻訳する時に本当に問われるのは日本語を書く能力である。私よりはるかに多く読み、深く考えて、文章を書いている人だということが一目見て明らかであった。それでも英語原文の読み違いなどあるので訂正して送り返すと、直ぐにまた質問や反論が返ってくる。細かい表現や訳語を巡って論争となった。多分一度も顔を合わすことなく、インターネット上のやりとりであったが、気持ちの良い充実した係わり合いであった。■

教育の無償とフリーセックスと働きすぎ スウェーデンの政治事情

榊原裕美（APWSL 日本委員会）

■ヨーロッパ社会フォーラムであそぶ■

10 月 15～17 日ロンドンで開催された第３回ヨーロッパ社会フォーラム（ＥＳＦ）にちょっとだけ行ってみた。スウェーデンから往復１万５千円の飛行機代につられてしまったが、試験の合間だったし、実際は本当に少し垣間見られただけだった。地下鉄の中で東洋人風の若者二人がＥＳＦのプログラムを見ていたので、話しかけたらフランス人と日本からの留学生だった。

そんな風で若者も参加したＥＳＦであったが、詳しくは写真で雰囲気を味わってほしい。

およそ 70 カ国から２万人以上の活動家の参加、テーマは、①戦争と平和、②民主主義と基本的権利、③社会公正と連帯、④企業のグローバリゼーションとグローバルな公正、⑤レイシズム・差別と極右に抗して、⑥環境危機・新自由主義に抗して及び持続可能な社会のために、の６つで、500 以上の分科会があって、最終日の 17 日には７万人の参加で、おもにイラク戦争やレイシズム反対を訴えるデモンストレーションが行われた。私は行きがかり上、トービン税（国境を越えて行なわれる短期取引に国際的に行なう課税）の分科会に参加して、ベルギーの国会で採決されたトービン税をほかの国にも広げるための活動を立ち上げる計画の話し合いを少しのぞいた。そして、少々悪趣味なビクトリア宮殿で、たくさんのカンファレンスや、スタンドが出されるのを見て回り、最後のデモに参加した。

2002 年第１回フィレンツェでの６万人弱の活動家の参加と 100 万人のデモ、2003 年第２回パリでの５万人の活動家の参加と 10 万人のデモ、に比べて少ないということで、多様な集まりというよりも、特定の左翼グループが目立っているという話だったが、ほんの少しの参加ではそれもよく分からなかった。フォーラム全体にいえるだろうが、実際もう一つの世界はどうやって可能なのかを日々の実践につなげていくことが必要になっているのではないかと思う。

▲　ロンドン・ヨーロッパ社会フォーラムのデモ

などと言っても、結構怠惰な日々を暮らしている私だ。

もう４ヶ月を過ぎて半年の滞在の人はそろそろ帰り始めている。この分で行くとあっという間に終わってしまいそうな１年だ。

■社民王国スウェーデン■

ところでスウェーデンは、言わずと知れた社民王国である（実際王制だから間違ってない。次期国王は、１９７７年に生まれた第１子のビクトリア王女。７９年に王子が生まれた翌年！スウェーデンは法律で、最初に生まれた子供を王位継承者にすると決めたらしい）１９２１年に政権を初めて持って以来、長く政権にあり、2002 年の選挙で

も、勝利し、左翼党（元共産党）環境党などと連立を組んでいる。

この街でも社民党が約 80 議席のうち 33 議席を占める最大政党なのだが、日本の凋落振りから見ると不思議な気がして仕方がない。もちろん社民主義は資本主義体制を支持してるのだが、なんと言うか社会の調整機能を最大限活用している「社会」主義、というかんじである。よく言われるように、イデオロギーの国ではなくプラグマティズムの国なので、原理原則を通そうというより、その時々で最善と思われる選択をし、それがまずければまた変える、のだ。人口が少ないからできるのかもしれないが、日本の左翼とはその現実主義ぶりがずいぶん異なり、戸惑うことが多い。

先日日本大使館の若い官僚と日本人研究者が、日本の左翼にはマルクス主義者が多かったのが日本に社民主義が定着しなかった原因だと言っていたが、それはかいかぶりではないだろうか。

ただ、かつての「東側」と近く、共産主義に対してのアレルギーがあるのかもしれない。左翼党は、フェミニストを党首にして、１０%以上の支持率を獲得できていたときもあったのだが、最近彼女がスキャンダルで降りてから、党首になった男性が、コミュニストを自認する発言をして、大きく支持率を落とした。内部のがたがたが顕在化し、先日フェミニストの元党首は脱党してしまったようだが、それはともあれ、そんな風なら、「コミュニスト」はあまりいないのかと思うとそうでもなく、革命的共産主義者青年同盟、みたいな組織も近所で活動しているようである。地元紙に集会の様子が怪しげな写真入で載ったりするのがまた不思議なのだが。

私の住むヨンショピンの街には、82 年に若者たちが自分たちの自主管理のための空間をと異議申し立てをして勝ち取ったスペースが駅の近所のマッチ博物館界隈にあるのだが、そこにも活動家の巣のようなところがあって、自主出版的な機関紙などを置いたり、落書き用のスプレーを売ってたりしている。最近違法なパチンコを販売しているとして、街に警告されていることが地方紙に載り、やめないと補助金を切ると言う話から、街が若者の文化活動費としてその団体に補助していたことが分かった。そういう意味では、日本より寛容な部分もあるかも知れない。先の革命的共産主義者青年同盟も、北朝鮮やキューバに若者を派遣したりする団体に補助するのはいかがなものかと、リベラル派（ここでのリベラルはアメリカとは違う文脈である）の穏健党から批判をされていたというから、そこにも国家から補助があるということか。しかしすべての意見について寛容なのかというと、人種差別的な右翼団体には絶対に認めたり補助したりしない（スウェーデンはレイシストの地下活動が一番盛んだそうである）ので、やはり社会民主主義政権の国なのだ、というところだろうか。

■スウェーデンの政治地図■

完全な比例代表制で、党は大きく７つある。先の２党と、中央党（元農民同盟。社民政権の安定にはここととの労農共闘－赤緑連合と呼ばれる－が大きな役割を果たした）穏健党、国民党、キリスト教民主党と諸党。

それぞれの政党が微妙に異なり、それぞれ多様な政治的な意見を代表させることができる。社民党の批判票がそのまま左翼党に行ったり、という形で与党内での表の動きによって政権交代までいかない世論表明もできるところなどなかなか絶妙。野党も経済自由主義派の穏健党から、ナショナリズムの国民党、保守的な価値を信じるキリスト教民主党と、それぞれ価値観が違うので、党の集票から国民の考え方の動向を見ることができる。そういう意味では政治がそのまま民意の反映であるともいえる。またドイツのように４%条項があって、ある程度支持が集まらないと当選しないようにもなっている。

投票率が９０%近いというのも驚くべきことだ。選挙公報は、日本と似た体裁だが、きれいで、

▲　ロンドン・ヨーロッパ社会フォーラムのデモ

何ページもあり、選挙の歴史なども書かれ、若い人の意見が顔写真つきで出ている。普通選挙が始まって以来の各党のポスターの写真も出ていたりして時代を反映するデザインとしても楽しめ、選挙をする大切さを訴えている。社民党のポスターの休暇要求が年を追うごとに長くなっていて、さりげなく政府の成果の宣伝にもなっているところが憎い。でも、どこかの国のように、有権者は寝ててくれればいい、などという政権党が長期政権を持たせているほど民主主義に自信がないのとは大違いだ。

スウェーデンはもともと貧しくて 1860 年から 1930年までの間に100万人もアメリカに移民したという。当時はせいぜい 500 万の人口だったから大移動である。移動した先のアメリカがあんな国なのはどういうわけか、と不思議なのだが、人口が少ないからかなあとどうしてもそこに帰結してしまう。

どっちも似たような 2 大政党など、何の政治の妙も感じさせない。善か悪か、神か悪魔か、の二分法。選択肢がないとは不幸なことだ。スウェーデンなどカリフォルニアと同じ面積でしかない巨大な国土にあらゆる人種が 2 億 8 千人も住む国には、こんな微妙なことはできないのか。

そういう意味で彼らがＥＵ統合に慎重なのも理解できる。民主主義が遠くなることを警戒するのだ。2003 年のユーロ導入についての国民投票では、ノーという意思表示になり、今もクローナである。ちなみにスウェーデンに来て 3 年になる日本人留学生も国民投票に参加できたそうである。日本では国民投票など経験できないので貴重な経験だったと思う。彼は比例代表制は、どの党も若い人たちが当選できるし、地元の利益誘導になりにくい、と評価していた。

■「社会化」した社会のくらしやすさ■

ここではたしかに物価も安くないし、税金は高い。消費税は２５%から３０%だ。しかしいたるところにリサイクルショップがあるし、先の自主管理スペースでは毎週フリーマケットがある。バスも 1 回 300 円と高いが、月 3000 円で乗り放題カードがもらえる。またホテルも高いが、ユースホステルは一泊 3000 円くらいで、とてもきれいだ。子どもが遊ぶスペースがあったりするのがこの国らしい（直行便の格安チケットもあるのでぜひどうぞ)。

それに聞いてはいたが、ここでは学費というものが存在しない。全部ただである（私の行っている大学は公立ではないがやはりない)。しかも学生には返さなくていい奨学金が親の収入や本人の成績無関係に月 3 万円もらえるのである。だから高校を出ると、みな一人暮らしをするようになる。日本のようなパラサイトは存在しない。親を通さなくても社会的に暮らしていける仕組みだからだ。私立の高校と大学に子どもをやり、自分も学費を払う身の上としては、これには感心するというより、学費でほとんど生活が破綻しようとしている私には大ショックだった。

今回奨学金がもらえたからきたのだが、国費留学生は大学に 5 人だけで､しかも月に 8 万円だけ。育英会（旧名）と留学の奨学金は兼用できないというケチ振りである。交換留学生は自分の国の自分の大学に学費を払う。私は学費免除を遠くから申請するも半額免除にしかならなくて、また心労が。

ここではどの学部の学生も返還義務のある（利子付き）が、10 万円強までもらえるのである。高校を出れば、経済的にも親に依存しない自立が可能だ。大学入試はないし、塾もない。しかし単位を落とすともらえなくなるから勉強しないとしかたがない。それに落としても追試を受けることができるのが大きな特徴だ。勉強させることに主眼がある。

編集長のＹさんの家の、浪人するなら全部自分で、学費は国立分しか出さない、後は全部自分で稼げという厳しい教育方針には、かくあるべし、と感動したものだったが、ここではこのようなしっかりした親にならなくても社会がそういう仕組みになっているし、親は子どもの学費で悩むことはないのだった。

私のような、子どもが小さいときずっと働いていて大きくなったら仕事やめて勉強、など言うケースは、学費のために母親が働き始める日本ではクレージーでしかないが、こっちでは、当然の選択である。

15 年以上税金を払ってきてこんな目にあうとは日本に生まれたことをつくづく嘆く。少々税金が高くても、大きくなった子どもが自立でき、どんなときも勉強しなおせる社会の方が断然いい。

日本ではいくら所得を増やしても、小さいときから塾や教材で使うお金を考えると膨大な教育費がかかり、働き過ぎなければ人並みに暮らせない社会になっている。その分税金で、よい公教育を受けさせてくれるほうがどんなによいか。日本は社会化せずになんでも商品化したので、こんなに人が働き過ぎなければ生きていけないのだ。そうやって子どもは大学を出てもろくに英語も話せないし、選挙にも行かないのである。スウェーデンの子は英語の授業をこなし、5 時間と言う長時間試験で 8 割とる子が何人もいる。8 割の投票率を低くなったと嘆いたりする。

働きすぎ性差別社会は社会の「商品化」のせい？

親が必死に子どものためにつまらないお金稼ぎをしている間税金を払いながらもスウェーデン人は人生を謳歌してのんびり暮らしているのだ。フィーカと言ってお茶の時間を勤務時間中に 2 回くらいとる。金曜日はみんな半ドンらしい。教育委員会の建物をたまたま見学させてもらったら 5 時過ぎにはほとんど人がいなかった。それなのに情報公開ですべて市民は情報請求できるのだ。休暇は 5 週間取れる。仕事中にりんごをかじったりしているし、昼休みはお休み。短時間の人は 3 時に帰ったりする。そのまま担当の窓口も閉まるが誰も文句を言わない。

教育を商品化せずに社会化したら、どれだけ日本の社会が変わるかと思う。

そしてこうして親を通じないで子どもを育てる仕組みによって、18 歳になった子どもたちが自立して親と暮らさないですむ、ということは、性的な自由を得ることでもある。かつてフリーセックスの国、と言われたが、子どもは社会が面倒を見てくれるなら、結婚と言うカップルを作って一家を背負って再生産する必要がない。

▲　ロンドン・ヨーロッパ社会フォーラムのデモ

この間 8 月に 900 万人になったといって大喜びしているほど人口を増やしたいこの国では、移民が 20%というかつてとは逆パターンになっている。スウェーデン人の恋人がいれば簡単に居住権が得られるそうだ。愛し合う二人を引き裂くような無粋な真似をしない、ということなのか、スウェーデンはきわめてそのことについて寛容な国だと労働省の若い女性が言っていた。

地方紙に赤ちゃん生まれましたの欄があって、家族と赤ん坊が載るのだがたいていカップルの姓が違っている。こっちではサンボという同棲が、ほぼ結婚と同じ権利が認められている。当然ながら生んだのは母だから母親の名前が最初である。性的な結びつきが経済と関係なければ、自由になるのは当然だ。そして自由になれば、したい時にするが、したくない時にはしないものだ。抑圧がないと言うことはしない自由もあると言うことだ。

日本の場合は、性的な活動性がある年代は親掛かりで抑圧があり、また経済的に自助努力で自立できないとカップルになれないとなれば、結婚は性的、人間的な結びつきではなく経済的な結びつきなのである。子どもにお金もかかるし離婚が少ないのも当然で、人間の本性からもゆがんでいる。男が稼ぐ、と言うしくみがなければ、女性の商品価値をあげるための貞操観念もない。妊娠問題さえクリアすれば、当事者同士の合意以外何の問題にもならないし、子どもは社会で面倒を見るなら、それも問題ではない。女性だけでなく、男性にとっても自由になれるし、疎外されて売買する必要がない。経済的な束縛ゆえに性の自由がないから性産業がさかんになるのだ。（スウェーデンでは性の自由があっても若年妊娠は少ないし、人口が増えないのも不思議なことだ。）

日本の社会は、教育と並んで性の商品化の度合いは世界でもトップレベルだろう。それがＧＤＰを押し上げて空疎な生きにくい経済大国をつくっているのだ。

日本の資本主義社会に比べ、この国はなんと合理的なのかと悔しいけど感心する。そして逆に日本の資本主義の不条理さはこういう形でできあ

がっているのかということがよく分かる。日本の働きすぎや労働条件の劣悪さはこんな社会の仕組みしかできなかった政府のひどさに負うところが多い。とうとう国民の命まで平気で見捨てる日本政府には、ほとほと愛想が尽きる思いがする。そうした政府しかもてない私たちの運動自体が問われてるのだと思う。90 年代、労働現場に関わって運動をしながら、一つも日本をよくできなかったと言う忸怩たる思いがある。いったい何が足りなかったのだろう。

最近、防衛費の大幅削減の政府提案をめぐって、議会を二分しているらしい。左翼党が棄権すると言いながら自主投票になりそうで、それがキャスティングボードを握っているという。ＥＵ完全撤退が党の主張なので、防衛費削減は自主防衛が危うくなるとの論理らしい。

日本ではありそうもない政治のシナリオに、いつも驚くのであった。

原発廃止や、防衛費削減など、こちらでは明るい話題が多いが、日本からは武器輸出の緩和など陰鬱になることばかり。しかも武器輸出はスウェーデンの暗部なのでこのときばかり変に真似して、「スウェーデンのような武器産業平和国家をめざす」などといわなければいいが、とひそかに思っている。

ところで前のリンクスに私がヨンショピン大学博士課程に、と見出しがあったが大違いで、私は学部に入って大学１年生と一緒に勉強することになったのだ。それというのもこの交換留学生システムが学部生中心なのと、私はもともと学部は国文科だから、経済の授業を受けたかったし、英語を始め大学院レベルに自信がなかったので敢えてそのようにしなかったということがある。これがなかなかつらいものがあった。興味深いことも多かったが、今思うとちょっと失敗だったかもしれない。子どもと同じ年の子達と一緒に学ぶのは厳しいものがあった。また私の研究テーマと離れすぎていて、なかなかたどりつけない、ということもある。

というわけで、労働についての調査は進んでいないが、次回になんとか報告したい。（つづく）

「ＡＰＷＳＬ　ＪＡＰＡＮ」英文ニュース
2 年ぶりに発行

ＡＰＷＳＬ日本委員会の英文ニュース「ＡＰＷＳＬ　ＪＡＰＡＮ」は 2001 年から紙では発行せずＰＤＦ形式で発行することになりました。しかし、電子媒体になってから 2001 年と 2002 年に一回づつ発行されただけでした。７月に開催された日本委員会の第 15 回総会で今後は関西が責任を持って編集することが確認され、早速 10 月に 2 年ぶりの 41 号が発行されました。日本委員会のホームページに掲載されているのでご覧下さい。

ここでは目次と編集者からの言葉を翻訳して掲載します。

編集者から

「ＡＰＷＳＬ　ＪＡＰＡＮ」第 40 号が皆さんの手元に届いてから 2 年近くが経った。この号では皆さんと一緒に「喜び」「怒り」と「団結」を分かち合いたいと思います。25 年も苦しい闘いの後に勝利した郵政労働者と共に喜びたい。東京都教育委員会の反動的な攻撃に怒りたい。タイソン・フーズの労働者との国境を超えた団結を分かち合いたい。

インドのムンバイで開かれた第 4 回世界社会フォーラムでの議論に基づき、ＡＰＷＳＬ日本委員会はグローバル化がもたらす課題に効果的に対応するためにＡＰＷＳＬのネットワークを強化する創造的な方法について現在論議しているところである。各国委員会間の通信の改善と、情報・経験の交換がこれまでにも増して重要になってきている。そこで、この通信をもう少し定期的に発行するよう努力することを約束する。

編集者　　喜多幡　佳秀

「ＡＰＷＳＬ　ＪＡＰＡＮ」
第 41 号 2004 年 11 月

目次

1．　25 年の苦しい闘いの後の逆転勝利
　　解雇された郵政労働者、裁判闘争に勝利
2．　東京で「君が代」（国歌）を拒否した
　　220 人の教師に処分
3．　安全な職場、安全な食品
　　ＢＳＥ問題への労働者と消費者の対応
4．　ＡＰＷＳＬ日本委員会第 15 回総会
　　7 月 17-18 日
5．　2004 年 1 月ムンバイでの
　　第 4 回世界社会フォーラム
　　ＡＰＷＳＬ日本委員会主催の分科会
6．　英字紙からの短信
　ａ　美浜原発の蒸気漏れ事故　ヘラルドトリビューン・朝日　2004/8/10　毎日　2004/8/10
　ｂ　郵政民営化・分割化　ジャパンタイムズ 2004/7/24
　ｃ　扶桑出版の歴史教科書採用　ヘラルドトリビューン・朝日　　2004/8/27

▽編集部より▽

▽　何とか年内にこの第 40 号を皆さんのお手元に届けることができました。原稿を寄せていただいた皆さん、編集委員、レイアウト、印刷、発送担当の皆さんのご協力に感謝します。

▽　ＡＰＷＳＬの国際ネットワークは１月世界社会フォーラムが開催されたムンバイで６カ国委員会の会議が開催された以降は大きな動きは見られませんでした。共同議長のルークからは掲載のように来年３月の総会開催の知らせが届いています。まだ見通しははっきりはしませんが、バンコクでの総会開催に期待したいと思います。開催できるかどうかに関わらず、各国で独自に何ができるか、二国間で何ができるかを優先して考え、その上でそれを地域的に広げていく方法を考えることが大切だと思います。

▽　私事になりますが、自治労文芸コンクールのノンフィクション部門の佳作に入賞しました。今年の三月に連れ合いとロンドンに遊びに行った印象を紀行文に書いてみたものです。自治労新聞にコンクールの広告が出ていたので応募したところ入選なしの佳作１点に選ばれ、賞金５万円もらいました。

▽　その全受賞作品が『自治労文芸』21 号に掲載され、そこに選考委員による論評も掲載されています。それを見ると私の文章は、鎌田慧、立松和平、道浦母都子の三人の選考委員からくそみそに批評されています。自治労文芸会議幹事による予備選考で選ばれた推薦候補作品の中から選考委員が入選作品を選ぶという選考手続きが取られました。ノンフィクション部門では私の作品だけしか推薦されませんでした。選考委員の皆さんは他に選択肢がなかったわけです。鎌田慧は何でこんなひどい作品しか推薦しなかったのか、もっと良いものがなかったのかと、幹事たちを非難しているありさまです。

▽　そこまで酷評されていささか滅入りましたが、考えてみれば当然です。私は仕事で短い文章を書いたり、組合の新聞の記事を書いたりはしています。また翻訳もしているので、文章を書くことには慣れています。しかし、自分のこと事を文章で表現する、あるいは文芸作品として書くということはしたことがありません。旅の想い出を残したい、そして子供の時にイギリスで生活して体験したことを書いてみたいと思っただけです。別に賞を取りたいと思って書いたわけでもありません。

▽　それがたまたま唯一の推薦作品となってプロの物書きの目にさらされてしまったわけです。私の想定しない高いレベルの基準で判定されたわけです。自分のため、あるいは自分を知っている周りの人のために書くのと、不特定多数の人に読んでもらうことの差も思い知りました。一方で 33 人の落選した応募者の多くは何度も挑戦している人たちであり、その中には下請け清掃の仲間の加藤木雅義さんや東京清掃の先輩の金高毅さんのように過去に受賞歴のある人も含まれていることを知り、初めて応募して入賞できたのはまんざらでもないと気を取り戻すことにしました。

▽　専門家の人たちから真剣に批評してもらったのを励みにして、またいつか書いてみたいと思います。それまでによく自分を見つめ直し、皆さんにも読んでもらえるようなものを目指しますのでご期待を。前編集長榊原裕美さんがスウェーデンに留学されたので、一年間ピンチヒッターとして再登場することになりました。取り立てて抱負はありませんが、これまでの編集方針を引き継ぎながら、年４回の発行を忘れないことを最大の目標にしていこうと考えています。

LINKS—リンクス—　No.40　2004 年 12 月

●発行所　東京都台東区上野 1-1-12　新広小路ビル　協同センター労働情報　気付
電話　03-3837-2542　FAX 03-3837-2544
●関西連絡所　大阪市北区天満 2-1-17　金屋町ビル ゼネラルユニオン気付
電話　06-6352-9619
●　Ｅメール　apwsljp@jca.apc.org　URL　http://www.jca.apc.org/apwsljp/
●　郵便振替　00180-3-137822
●　編集長　山崎精一　編集委員　高幣真公、榊原　裕美、渡辺　弘、山原　克二
●　印刷　中原　逸雄　レイアウト　稲垣　豊
●　定　価　300 円